

# 泉北ブロック青少年指導員連絡協議会研修会兼 堺市青少年指導員連絡協議会中央研修会を開催しました



昨年に引き続き、堺市が幹事として泉北ブロック青少年指導員連絡協議会研修会兼堺市青少年指導員連絡協議会中央研修会を令和6年2月4日(日)にフェニーチェ堺小ホールで開催いたしました。

今回の研修会は、ジャーナリスト 石川 結貴様を迎え、「スマホ世代の子どもの向き合い方～SNS、ゲーム、ネットいじめについて考える～」をテーマに、子どもたちがなぜ、スマホに夢中になるのか、青少年指導員として今時の子どもにどう向き合い、どんな風に支えていけばよいかについて、ご自身の取材経験を基に、お話をいただきました。

当日は、泉北5市町(堺市、泉大津市、和泉市、高石市、忠岡町)から165名の青少年指導員が参加いたしました。研修会終了後、「今のSNSの実態や子どもたちの間で起きている危険が分かった」「最後の話を聞いて涙がでた」など多くの感想をいただきました。



堺市各校区青少年指導員会の活動を随時堺市 HP で更新しています。

令和5年度の活動は右の二次元コードからご覧いただけます。

他にも「自分たちの校区ではこんな取組をしている!」「この取組について掲載したい」等、ご要望がありましたらお気軽に事務局までご連絡ください。



## 編集後記

堺市青少年指導員連絡協議会広報部長  
藪内 寛之

堺市青少年指導員制度の発足70周年を迎え、本記念号を作成することとなりました。私個人としましては、組織が惰性に流されることなく、その役割をしっかりと意識し、その時々課題にも柔軟に対応するには、組織の新陳代謝とともに、こうした節目において振り返るということがとても大切なことではないかと思っています。

本号を作成するにあたりまして、前向きな意見で活発に議論いただきました広報部員の皆様へ、まず感謝の意を表したいと思います。

その上で、わたしたち青少年指導員が、改めて原点に戻り、その役割を見直しておきたいものだとこの70周年の節目にあたり強く願います。

最後に、青少年指導員の手引きより『青少年指導員とは』に記載されている一文をそのまま記して編集後記といたします。

### 『青少年指導員とは』

青少年が健全に成長できるよう、地域において、より良い人的・物的環境をつくる推進役であり、小・中学校や自治会など関係機関・地域団体と密接な連携を取りながら、青少年健全育成事業・啓発活動・青少年団体の育成・指導者の養成・環境浄化等の活動を行う有志のボランティアです。

## 編集委員

- 藪内 寛之 (浅香山)
- 村上 仁志 (大仙)
- 竹村 裕之 (三宝)
- 南 埜 孝 則 (深井)
- 橘 健一郎 (東陶器)
- 上 田 吉 宏 (登美丘西)
- 吉 田 富 晴 (南八下)
- 池 側 昌 男 (福泉)
- 今 村 尊 (津久野)
- 林 賢 二 (高倉台西)
- 宇都宮 恵里子 (晴美台)
- 奥 宮 伸 秀 (東三国丘)
- 下 元 藤 太 (北八下)
- 上 野 忠 志 (黒山)
- 小 村 悦 子 (さつき野)



# せいしょうねん



2024.3

— 青少年指導員制度発足70周年記念号 —

No.80

編集・発行：堺市青少年指導員連絡協議会

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号  
(堺市子ども青少年局子ども青少年育成部子ども育成課内)  
TEL 072-228-7457 FAX 072-228-8341  
Eメール: koikusei@city.sakai.lg.jp



## 堺市青少年指導員制度発足70周年にあたって



堺市青少年指導員連絡協議会  
会長 山田 勝彦

堺市青少年指導員の皆様におかれましては、日頃より地域での青少年健全育成活動等にご尽力いただいておりますことに深く敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

本年度は堺市青少年指導員制度発足から70年目を迎える節目の年です。一言で70年と申しますが、その道のりを思えばと紆余曲折があり大変なものであったであろうと想像がつかます。私たちの諸先輩方が脈々と積み重ねてこられた結果として今日があります。有り難うございます。

70周年の節目にあたり、私たちはこの制度(組織)が存在することを改めて認識し、今一度初心に戻り一歩ずつ着実に活動を積み重ねることを大切にしたいと思います。

また、昭和47年(1972年)に堺市青少年指導員連絡協議会が発足して半世紀以上が経ちました。堺市に本制度(組織)があることは、私たちが活動を続けていく上において大きな強みです。誇りと、やりがいをもって青少年指導員としての活動を推し進める源泉となっています。

さて、本年度4月1日にこども基本法が施行されたように、青少年を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。私たちは、時代背景に即して社会情勢を見極めながら新しい取組にチャレンジしていかねばなりません。

青少年健全育成活動へ新しい発想を生み、行動のエネルギーとするには、私たちは個別に青少年健全育成活動にもっと好奇心を持つことが重要だと思います。また、より幅広い市民の声を聴き、ニーズに合った活動を展開するために、組織としては新しい仲間を積極的に迎え、幅広く多様な層で構成していく必要があると感じています。

思いはただ頭の中で考えるのではなく、いろいろなことを実行に移していかねばならないと思います。試行錯誤を繰り返しながら自己研鑽に努め、創意工夫を重ね、より良い方向性を見出して活動をするのが大切です。

今後とも、青少年指導員としての自負心を持ち、認知度を高めていくことと青少年に対する私たちの地道な健全育成活動を両輪にして、更なる組織の発展と堺市への貢献をして参りたいと思います。同時に「子どもは地域で育つ」という観点からも、自治会及び地域関係団体とも連携を図り地域力を高めていくことも忘れてはならないと思います。

結びに、私たち青少年指導員に対し更なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 祝辞



堺市長  
永藤 英機

堺市青少年指導員制度が70年の節目を迎えられましたことをお慶び申し上げます。

青少年指導員の皆様は昭和28年の制度発足以来、子どもたちを温かく支え励ましてこられました。長きにわたり青少年の健全育成に取り組んでおられる皆様の熱意とご尽力に心より敬意を表し、感謝申し上げます。

近年、少子化や核家族化の進行、インターネットやスマートフォンの普及による情報化の進展など子どもたちを取り巻く環境は複雑化・多様化しています。

そのような中、堺市では市政運営の大方針である「堺市基本計画2025」の重点戦略に「将来に希望が持てる子育て・教育」を掲げ、「妊娠から学齢期まで切れ目のない子育て支援の充実」や「子どもの可能性を伸ばし未来を切り拓く力を育む教育の推進」などに力を注いでいます。

新型コロナウイルス感染症による未曾有の事態を経験した今、「大人が積極的に青少年と関わる地域社会の推進」や「青少年が健やかに育つ地域環境づくり」を方針とする皆様の活動は、地域社会全体で支え合う子育て環境の充実を進める本市にとって意義深いものです。

次の時代の堺を担う子どもたちが健やかに育ち、堺が将来にも夢と希望を持てる都市であるように力を尽くしますので、「子どもが輝く堺」の実現に向けた本市の取組に引き続きお力添えをいただければ幸いです。

結びにあたり、堺市青少年指導員の皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念しまして、お祝いの言葉といたします。

## 祝 辞



大阪府堺警察  
署長 上野 琢磨

堺市青少年指導員制度発足70周年を迎えられましたことを心よりお喜び申し上げます。  
近年の少年非行情勢を見ますと特殊詐欺では総検挙人員の約5人に1人が少年で、その多くがSNS等の違法・悪質な求人広告に応募して事件に加担しています。また、大麻や覚醒剤等の薬物事犯でも総検挙人員の約3人に1人を少年が占めています。  
私達が育った時代と比べて社会情勢も生活環境も大きく変様しています。次代を担う青少年たちが高い規範意識を持ち、たくましい自立心と相互扶助を忘れない優しい心、闊達な創造力や豊かな知識を身につけて、社会の発展と人類の幸福に大いに貢献できる立派な大人となるように、社会環境を整備するとともに健全な成長を阻害する行為から保護し、支え、育成することは、青少年健全育成に携わっている我々は当然ながら、家庭、学校等をはじめとした地域社会に課せられた重要な責務です。

こうした中、未来を担う青少年の健全育成に当たる崇高な志を持って、関係機関・地域団体ともに様々な活動に携わられている皆様方のご労苦に対しまして心から敬意を表する次第です。今後、デジタル化・グローバル化の進展に伴って多種多様な文化が出現する等の世界の潮流とともに堺市も大きく変革していくものと思われませんが、その土台となる“人材=青少年”の在り方は決して変わることなく、皆様方の担う役割も同様に不変です。

堺市青少年指導員連絡協議会の益々のご隆盛と指導員の皆様方のご健勝並びに更なるご活躍を祈念いたします。

年度(西暦)	青少年指導員制度70年のあゆみ
昭和 28 (1953)	青少年指導員制度を発足 堺市青少年指導活動実施要綱制定
昭和 31 (1956)	府青少年保護条例制定
昭和 38 (1963)	府青少年指導員連絡協議会結成
昭和 39 (1964)	堺市青少年問題協議会の設置
昭和 41 (1966)	特別青少年指導員(20名)を委嘱
昭和 43 (1968)	青少年指導ルーム指導員を委嘱
昭和 44 (1969)	青少年指導員、青少年指導ルーム指導員を統合 校区代表幹事を選出
昭和 47 (1972)	堺市青少年指導員連絡協議会発足
昭和 54 (1979)	堺市青少年指導員設置要綱の制定
昭和 57 (1982)	青指機関紙「せいしょうねん」創刊
昭和 58 (1983)	堺市青少年指導員連絡協議会「4事業部会」設置 府青少年健全育成条例制定
平成 1 (1989)	堺市政 100周年記念団体表彰受賞
平成 5 (1993)	40周年記念で青少年指導員全員にウインドブレーカー貸与
平成 9 (1997)	成人式への運営協力始まる
平成 13 (2001)	4事業部会を現行の2部会に統合 副幹事職設置
平成 15 (2003)	堺市青少年指導員制度50周年記念大会
平成 16 (2004)	堺市青少年指導員ロゴマーク決定
平成 17 (2005)	堺市・美原町合併
平成 18 (2006)	政令指定都市 堺の誕生
平成 24 (2012)	市内一斉合同巡回を実施
令和 4 (2022)	民法改正により成人年齢を18歳に引き下げ 従来の成人式に代え「二十歳の集い」開催
令和 5 (2023)	堺市青少年指導員制度70周年 こども基本法施行(令和5年4月1日)



## 東区二十歳の集いを終えて



東区二十歳の集い  
実行委員長 橋本 昌和

1月8日(月)、東区「堺市二十歳の集い」は、朝から好天に恵まれ絶好の式典日和となりました。午前8時には池崎東区自治連合会会長、登美丘ヤングサポート隊が会場に来られました。また、毎年多数のお手伝いをしていただいております東区青少年指導員は、予定通り8時30分頃から集まり始めました。

式典では、区内6中学校の卒業時の先生方によるビデオメッセージを上映するとともに、新型コロナウイルスが5類に移行後初めての開催になる今回は、アトラクションも再開して実施することになりました。コロナ前は登美丘高校のダンス部による演技だけでしたが今回は登美丘高校と初芝立命館高校の両校ダンス部の演技があり、参加者もほぼ全員が会場にとどまり鑑賞していました。

これまでの課題対応として、外でご家族の方に待っていただくと混雑してなかなか会場に入らない場合があるので、今回は2階に一般席を設けてみました。式後にお聞きすると「よかった。」という感想をたくさんいただきましたので、次回も実施できればと思いました。

また、東区の二十歳の集い自体は毎年穏やかに進行するのですが、式典終了後の初芝体育館敷地外へ退場するにあたって、体育館前の歩道が狭いためスムーズに行えないことが毎年の課題になっていました。そこで、今回は、初芝体育館裏の初芝駅に抜ける新しい道路に誘導を試みたのですが、まだ新しい道路の認知度が低く成功には至りませんでした。毎年続けることでよい流れができあがるのではないかと考えています。

若者実行委員の皆様には恩師からのビデオメッセージ作成から式典の司会進行に至るまでたいへん丁寧に取り組んでいただきました。ありがとうございました。

次回は今回見えてきた課題をより改善できるようにしたいと思っています。



## 令和6年(2024年)堺市二十歳の集い各区開催状況(一覧)

対象区域	会場	部	参加者数(人)	合計(人)	対象者数(人)	参加率(%)
堺区	フェニーチェ堺	1部	845	845	1,394	60.6
中区	ソフィア・堺(教育文化センター)	1部	970	970	1,309	74.1
西区	西文化会館(ウエスティ)	1部	345	1,039	1,442	72.1
		2部	330			
		3部	364			
南区	国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)	1部	1,107	1,107	1,406	78.7
北区	堺市産業振興センター	1部	1,061	1,061	1,602	66.2
美原区	美原文化会館(アルティベル)	1部	321	321	411	78.1
合計				5,905	8,430	70.0

## 二十歳の抱負

登美丘東校区 安野 真凜 八下西校区 野口 結風莉

地域の皆様、この度はお忙しい中、私たちのために盛大な式典を開催していただきまして、誠にありがとうございました。二十歳を代表して心よりお礼申し上げます。

この町でともに過ごした仲間たちとともに二十歳の集いを迎えられるのは、この上ない喜びです。

これまでの二十年間を振り返ると、自分ひとりでは、こんなに豊かな毎日になっていなかったと思い、支えてくれる人の存在の大きさを感じています。

自分を成長させてくれた先生や地域の方々、毎日楽しませてくれる友達、そして両親。

両親には今までたくさんの迷惑をかけ、わがままを言ってきました。しかし、今があるのは一番近くで成長を見守り、沢山の愛情を注いでくれた両親の存在があったからです。どんなときも私の夢や目標を一番に応援してくれたことが心の糧になっています。だから、両親が自慢したくなるような、応援したくなるような立派な人間になりたいと思います。

そして、私と出会ってくれた皆さんに感謝を込めて「ありがとう」の気持ちを伝えたいと思います。これからも人とのご縁や繋がりを大切に、そして感謝の気持ちを忘れず、自分も誰かの支えになれるような、誰かに必要とされるような社会人をめざします。

二十歳という大きな節目を迎え、これから先どのように人生を歩み、社会に貢献していくべきかを、真剣に考えていきたいと思っています。すでに就職している者や、学業に励んでいる者など立場は様々ですが、一人一人が自分の行動に責任を持ち、社会の一員として常に向上心を持って前進する覚悟であります。まだまだ未熟な私達ですが、どうかこれからも温かい目で見守っていただき、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

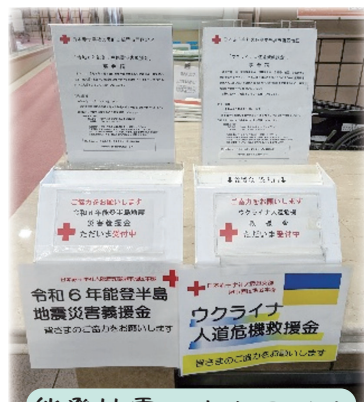
## 堺市二十歳の集い



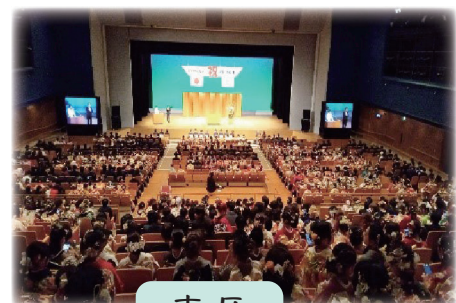
堺区



西区



能登地震・ウクライナ  
募金活動



南区



美原区



中区



北区



東区

## 【区研修会と施設研修会】

### 令和5年度 堺市青少年指導員 区青少年指導員研修会一覧

校区	開催日	内容	参加数
堺区	11月6日(月)	テーマ：「堺市の少年たちを取り巻く現状と、地域の大人たちの役割 ～コロナ禍で出会った少年たち～」 講師：大阪府福祉部子ども家庭局子ども青少年課 橋川 清太様	24人
中区	11月15日(水)	テーマ：「堺市の少年たちを取り巻く現状と、地域の大人たちの役割 ～コロナ禍で出会った少年たち～」 講師：大阪府福祉部子ども家庭局子ども青少年課 橋川 清太様	20人
東区	11月22日(水)	テーマ：「堺市の少年たちを取り巻く現状と、地域の大人たちの役割 ～コロナ禍で出会った少年たち～」 講師：大阪府福祉部子ども家庭局子ども青少年課 橋川 清太様	25人
西区	11月27日(月)	テーマ：「堺市の少年たちを取り巻く現状と、地域の大人たちの役割 ～コロナ禍で出会った少年たち～」 講師：大阪府福祉部子ども家庭局子ども青少年課 橋川 清太様	27人
南区	11月17日(金)	テーマ：「いのちの大切さを考える ～子どもたちを被害者にも加害者にもしないために～」 講師：少年犯罪被害当事者の会 一井 彩子様	23人
北区	11月28日(火)	テーマ：「思春期の子どもへの心の理解と関わり ～気になる行動があったとき～」 講師：大阪法務少年支援センター 地域教育支援調整官 山口 剛様	26人
美原区	11月16日(木)	テーマ：「ヤングケアラーの現状と必要な支援」 講師：大阪公立大学 教育福祉学類 教授 伊藤 嘉余子様	30人

### 『法務少年支援センターを知っていますか?・北区青少年指導員研修』

金岡校区 酒井 隆

各区の青少年指導員会では、子ども・若者育成支援強調月間である11月に合わせて、青少年指導員の皆さんの活動に資する知識、資質向上を図り、活動を充実させることを目的に研修会を実施しています。北区では、大阪法務少年支援センター地域教育支援調整官の山口 剛様に「思春期の子どもへの心の理解と関わり～気になる行動があったとき～」をテーマにご講演いただきました。法務少年支援センターは、非行の未然防止に向け2015年に全国の少年鑑別所に設置され、今年4月には地域や学校との連携を特に深めることをめざし、大阪と東京に地域教育支援調整官が配置され、山口様が就任されました。



講演は、少年鑑別所の業務の紹介から始まり、「最近の少年非行の動向」「思春期の子どもへの接し方」「非行の予防・再発防止に向けて」について、実際の対応事例を交えながらお話いただきました。お話の中で印象深かったことは、鑑別所に入所した少年を迎え入れる際「非行を前提とせず自分を見つめてもらう」という姿勢で接すると「実はうまくいかず困っている子」、「気持ちや考えを他者と共有する経験が少ない」ということを感じられることです。それゆえに「自分を理解し、応援してくれる人に出会える体験」、「『捨てたもんじゃない』経験」を積み重ねていくことを意識して接していくことが大切だとしてご指摘いただきました。このことは、入所した少年だけに関わるのではなく、地域の青少年と接するうえで心得ておくことだと思います。



地域で活動する私たち青少年指導員は、子どもたちから「気にかけてくれる存在」であり、「活動・楽しみ・打ち込める何か」を提供することが期待されているのではないのでしょうか。大阪法務少年支援センターでは、教職員との交流もあるとのことですが、気になる行動に気づいたときには気おくれなく相談してはいいかがでしょうか。

## 皆さんはヤングケアラーの存在をご存知ですか？

黒山校区 北口 恭子

私は先日「ヤングケアラーの現状と必要な支援」というテーマで大阪公立大学の先生をお招きした美原区青少年指導員研修会に参加して、ヤングケアラーの実情を教えてくださいました。

ヤングケアラーとは、家族にケアを要する人がいる場合に大人が担うようなケア責任を引き受けて家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもの事です。そのケア責任を負うヤングケアラーの実例はさまざまですが、自分がしんどい・辛いと思っても自分でSOSを出せる能力が無かったりします。例えば祖父母の介護でおむつ交換をするときにも「嫌だな」と思ったとしても、そう思う自分を責めてしまったりするそうです。私たちはともすれば家族のお世話をしていることを美談にしてしまいがちですが、褒められすぎると弱音を吐いたり、相談したりしづらくなるそうです。もちろんねざらうことはとても大切なことですが、私の周りには具体的に「あの子がそうだ。この子がそうだ。」と思いついたところもなく、たくさん伺った事例の中で胸が締め付けられる思いをしながら私にも何かできないのかなと悩んでしまいました。

ヤングケアラーへの支援の現状と課題として、まずは介護が必要な本人がいて、それをサポートするヤングケアラーがいて、察知しているが対応がわからない人がいて、実態を全く把握していない地域の大人がいます。研修会最後の質問コーナーで先生に「私は実態を把握していない地域の大人です。この私に何かできることはありますか？」

とお尋ねしたところ「今日の研修を受けたので、もう実態を把握していない地域の大人ではありませんよ。あとは子どもたちにかかわる機会をたくさん持って察知してあげられるようになってください。」とお答えをいただきました。

研修会に参加して、私もこういった実情を知る機会をいただきました。「自分の時間を持ってない」「周りと話が合わず、相談することもできない。」そういった子どもたちがたくさんいることをもっともっと知っていただくことが必要だと思いました。私もまずはそこから私に何ができるのか考えていきたいと思います。



## 施設研修会に参加して

晴美台校区 宇都宮 恵里子

令和5年12月10日(日)、大阪市立阿倍野防災センターへ行ってきました。参加者49名、2班に分かれての体験です。

最初は、巨大スクリーンで地震、津波の映像を見て災害の恐ろしさを体感。

次に、地震発生直後の室内の危険を察知してからの行動体験。特に火事を出さないための対応(減災)について教わりました。

続いて煙中避難体験。煙の恐ろしさや避難時の正しい姿勢を学んだ後、模擬煙の中に入ったの体験でした。液晶画面と連動した特殊な消火器を使ってのてんぷら油の消火体験は、目標にうまく消火剤(光)が当たらなければ消えない仕組みになっていて、消火の難しさを実感しました。

災害発生後の町並みは、とてもリアルに表現されていて、余震による落下物や二次災害の危険を実感するとともに、映像による津波の威力のすさまじさを体感。

最後に、震度7の直下型と海溝型の二種類の揺れを体験。約60秒の揺れはとても長く感じ、手すりを力強く掴んでも倒れそうになり、実際に大地震が発生した時のことを考えると不安でいっぱいになります。災害発生直後は支援物資がすぐには届きません。各家庭で最低3日分(できれば1週間分)の食料と水を備蓄しておく必要があります。そして、何よりも普段からのご近所付き合いが大切です。

昨年の堺市防災センターでの研修に続いての参加でしたが、忘れていたことも多くありました。いつ起きるかわからない大災害に備えて「自分を、そして、大切な人を守る」ためにも、機会あるごとに家庭で話し合い、地域での防災訓練や勉強会等で学び、知識を身に付けておくことが重要だと改めて感じた一日でした。



## 【校区の取り組みから】

### 4年振りの校区ハイキング

登美丘西校区 上田 吉宏



登美丘西校区青少年指導員会は現在21名の指導員で活動しています。連合自治会各種団体と協力しながら様々な活動を行っておりますが、今回は「校区ハイキング」を紹介させていただきます。

この行事は歴史も古く約半世紀(一説には60年)続く本校区青少年指導員会の活動であり、以前は「登西親子ハイキング」として実施しておりました。現在は登美丘西小学校児童と校区の皆様との交流を目的として実施しております。また、連合自治会各種団体との交流と地域の青少年健全育成を主眼として校区の皆様との協力のもと毎年行っております。

毎年11月第3日曜日に実施しており、今年も11月19日(日)に実施しました。ハイキングコースは毎年変更しますが、企画・立案は青少年指導員会が行っており、コースの下見・当日のハイキングの先導・見守り・昼食のカレー(登西名物)の調理等を担っております。

コロナ禍以前はみかん狩り、柿狩り、紅葉狩り等に約150人~200人の参加がありましたが、今年は4年振りの開催という事もあり、PTA・連合子ども会の役員も経験者がおらず児童の参加があまり多くはありませんでしたが、約120名の参加をいただき無事終えることができました。

久しぶりの開催ということもあり、今年も近場の大泉緑地を目的地として、途中堺市クリーンセンター東工場の見学を組み込みました。そこではSDGsの観点から職員の方に説明いただきました。児童たちも大きな関心を持って見学しており、終了後保護者の方から「楽しい企画をありがとうございました」とお礼の言葉やメールをいただきました。

今後もこの行事を含め青少年の健全育成、地域の安全・安心のために連合自治会各種団体と協力し、微力ながらお役に立てればと思っております。



### 地域ぐるみで青少年健全育成を

福泉校区 池側 昌男



今、福泉校区では「地域で子どもたちの生き生きとした姿が見られない」「子ども会に入って活動する子どもが減っている」「祭りに積極的に参加する青少年が減ってきている」など、地域における青少年活動が以前に比べて低下の傾向にあります。特に、コロナ禍における諸活動の制限以来、その事態がより顕著になってきています。

このような状況の中、福祉委員会を中心に、青少年指導委員会をはじめ、地域の各種団体(自治連合会、民生委員児童委員会、小学校PTA、連合子ども会、連合高齢者クラブ、祭礼関係団体、保護司会、更生保護女性会、母子寡婦福祉会、スポーツ推進委員会等)が協議を重ね、令和4年8月に「福泉校区子どもひろば実行委員会」を立ち上げました。

実行委員会でいろいろな活動を企画して、校区の子どもたちの健全育成を図ろうとするのが狙いです。

これまで、令和5年2月に福泉小学校5年生とディスコン交流会を開催するとともに11月には小学生を中心に全世帯対象のディスコン大会などを実施してきました。

また、旧福泉幼稚園跡や高齢者施設の福寿荘を利用して、子どもの「居場所活動」を7月から土曜日に月2回ペースで実施し、実行委員が交代で子どもたちの活動を見守っています。

今は、小学生を中心とした活動ですが、今後、校区の全青少年を対象としたいろいろな取り組みも考えていきます。

